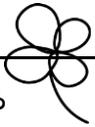


戦争の記憶を引き継ぐ

戦後75年・・・お茶中図書館にある「戦争を知る本」を読む

2020年7月 お茶中図書館

請求記号	書名	著者	出版社	出版年	内容紹介
913コ	ある晴れた夏の朝 	小手鞠るい	偕成社	2018	アメリカの8人の高校生が、広島、長崎に投下された原子爆弾の是非をめぐってディベートをすることになった。メンバーには母が日本人のメイもいた。
913ナ	世界の果てのこどもたち	中脇初枝	講談社	2015	満州で戦時中に出会って、友情で固く結ばれた3人の少女の戦後を描く。
913ク	光のうつしえ	朽木祥	講談社	2013	戦後25年の広島が舞台。戦争を知らない美術部の中学生が身近な人の戦争体験を聞き、「あのころの広島とヒロシマ」という作品を作り上げていく。
319ユ	平和のバトン 広島の高校生たちが描いた8月6日の記憶	弓狩匡純	くもん出版	2019	現代の広島の高校生が、被爆証言者の記憶を油絵に描くプロジェクトがある。取り組んだ4組を取材したもの。
319ナ	絵で読む広島原爆	那須正幹	福音館書店	1995	原爆投下の前のおだやかな広島の様子、投下直後の惨情が描かれている。原子爆弾の開発から投下にいたった経緯もくわしく記載されている。英語版もあり。
369ナ	ナガサキノート	朝日新聞長崎総局	朝日新聞出版	2009	若い記者たちが、長崎の被爆者30人を取材して描いた一人一人の戦後の人生。
210サ	30代記者たちが出会った戦争 激戦地を歩く	共同通信社会部	岩波書店	2016	ガダルカナル、インパールなど激戦地の戦闘に加わった日本兵の証言を、30代の若い記者が取材。兵士はどのような状況におかれたのか。
913タ	ガラスのうさぎ 	高木敏子	金の星社	1979	3月10日の東京大空襲で母親と姉妹を亡くした12歳の敏子。その後、父親も…。戦中戦後生き抜いた少女の物語。
916シ	約束の国への長い旅	篠輝久	リブリオ出版	1988	1940年、リトアニアの日本領事館の杉原千畝は、日本政府の命令にそむいてユダヤ人を救うためにビザを発行し続けた。
916ヨ	ぼくは満員電車で原爆を浴びた —11歳の少年が生きぬいたヒロシマ	由井りょう子	小学館	2013	11歳の時、爆心地から750メートルの電車の中で被爆して、奇跡的に助かった米澤鐵志さんの体験談。
916ヒ	いしぶみ —広島二中一年生全滅の記録	広島テレビ放送	ポプラ社	2009	学徒動員中に原爆で亡くなった広島二中の生徒の記録。子どもを亡くした親の悲しみ、苦しみが伝わってくる。
916フ	流れる星は生きている	藤原てい	偕成社	2015	敗戦後、27歳の著者が満州から6歳、3歳、生後1か月の3人の幼な子を抱えて、日本に引き揚げるまでを描いた壮絶な生き延びる日々の記録。
210ア2	綾瀬はるか「戦争」を聞く 2	TBSテレビ「NEWS23」取材班	岩波書店	2013	広島出身の女優綾瀬はるかが、戦争体験者を訪ねたテレビ番組を書籍化。
916ヒ	白旗の少女	比嘉富子	講談社	1989	太平洋戦争末期、戦場となった沖縄で家族とはぐれた7歳の富子が、ガマで老夫婦に助けられ生きのびた記録。

請求記号	書名	著者	出版社	出版年	内容紹介
319ヤ	戦争を取材する 子どもたちは何を体験したのか	山本美香	講談社	2011	戦争ジャーナリストの山本さんは、2012年にシリアで死亡。生前出版された本には、戦争が起きている国の子どもたちの窮状が報告されていた。
210サ	海に沈んだ対馬丸	早乙女愛	岩波書店	2008	1944年沖縄から疎開する児童を載せた対馬丸は撃沈された。救助された7人の子どもたちの40年後の証言集。
913ム	マヤの一生	椋鳩十	大日本図書	2014	戦時下かわいがられ大切に育てられていた熊野犬マヤを、軍用犬として供出するように命令される。動物を飼うことも自由にできない時代だった。
234ナ	アウシュヴィッツ博物館案内	中谷剛	凱風社	2012	アウシュヴィッツ強制収容所の唯一の日本人公式ガイドが、巨大な殺人システムがいかにして生まれ運営されたのか紹介している。
913イ	黒い雨	井伏鱒二	新潮社	2003	原爆症の噂を立てられ、縁遠くなった姪の潔白を証明するために当時の足取りを記録しようとするが・・・
319口	なぜ、おきたのか？ ホロコーストのはなし	クライヴ・A・ロートン	岩崎書店	2000	ナチスによるユダヤ人への差別がどのようにして起こり、ホロコーストへと向かったのかを多くの写真などから検証している。
949ト	海の島 ステフィとネツリの物語	アニカ・トール	新宿書房	2006	ナチスの迫害から逃れ、華やかなウィーンからスウェーデンの寂しい漁村へ疎開した姉妹の1年間を描いている。孤独や不安、複雑な感情が丁寧に描かれている。
943リ	あのころはフリードリヒがいた	ハンス・ペーター・リヒター	岩波書店	2000	ヒトラー政権下のドイツ。幼なじみのユダヤ人とドイツ人の少年の日常は大きくかけ離れていく。続編あり。
943コ	ベルリン1945	クラウス・コルドン	岩波書店	2020	ベルリン貧民街の労働者一家の少年、少女の目をとおして、ドイツの3つの転換期を描いている。『ベルリン1919』『ベルリン1933』と三部作。
933パ	木槿の咲く庭	リンダ・スー・パーク	新潮社	2006	日本統治下の朝鮮。10歳のスンヒと兄テヨルの目を通して描かれた戦争。
933セ	灰色の地平線のかなたに	ルータ・セペティス	岩波書店	2012	1941年のリトアニア。画家をめざしていた15歳のリナは母と弟とともにソ連の秘密警察に捕まり、シベリアの強制収容所へ送られる。
949フ	アンネの日記(増補新訂版)	アンネ・フランク	文藝春秋	2003	ユダヤ人のアンネ一家は隠れ家に身をひそめる。小説家になることが夢だったアンネの13歳から15歳までの隠れ家での生活を描いた日記。
933バ	ヒトラー・ユーゲントの若者たち 愛国心の名のもとに	S・C・バートレット	あすなろ書房	2010	ナチスドイツの青少年組織に入団した若者は、どのように教育され、どう行動したのか。
933モ	モーツァルトはおことわり	マイケル・モーパーゴ	岩崎書店	2010	世界的バイオリニスト、パオロは決してモーツァルトを演奏しない。それはナチスの強制収容所の悲劇につながっていた。
949ペ	第八森の子どもたち	エルス・ベルフロム	福音館書店	2000	オランダが舞台。都会の住まいを追われた11歳のノーチェは父親と、農家に居候することになる。農家の夫妻は様々な人に手を差し伸べていた。
973ド	ジュリエッタ荘の幽霊	ベアトリーチェ・ドンギ	小峰書店	2005	終戦間近のイタリア。リッツが勉強を見てもらうために通うことになったジュリエッタ荘は幽霊がでると噂される館だった。